



五事根源圖書



14
2478
113



御國忌

先帝崩御ノ御忌月ノ日也一國ノ者
慎也代ノハ用ヒラズ時々替也
ナシ壺相壺ナ

侍此殿ニ有リハ誦 法華經八卷アリテ朝一卷晚三卷
石洲 石洲 寺大

女官ノ居殿也ハ誦 日ニニ卷ツ、四日ノ間行ハル也

和ニアリ本尊ハ多門

天也拾芥ニ出夕リ

叙位 六位ハ不叙六位カ叙五位ナリ六位以下ハ別アリ五位以上ハ教授ト云

ナリ内ハ位外七位以上ハ養授ナリ外ハ位内外ノ初位ハ判授ト云

テ上ニ申上カ大臣ノ判談テ位ヲ授也叙位ハ一位ヨリ五位ニ

テ尤仗 考箭ヲ帶スルモノヲ仗ト云 陣ノ事ヲ催 外記ニ仰也 勸

也 今ノ藏人頭也先關白カ御前ニ參ラルハ藏人カ天子ノ

盃 献也 藏人 御氣色ヲ窺ヒ諸卿ヲ召也此夏清涼殿ニテアリ

宮文 下ヨリ願フ文書ヲ管ニ入タルナリ文書ノ數ハ本註ノ如シ

此宮文ハ外記陣座ニテ上卿ニ奉リ又外記ニ給マラテ場殿

外記陣座ニテ上卿ニ奉リ又外記ニ給マラテ場殿



持參メ庭ノニ立納言宮文ヲ
取テ昇殿シ御前ノ座ニ著也
圓座 雅抄曰エニガトイフハト子
リバカリカワリタ也
又見大饗雜事

十年勞 六位諸司積年勞而可叙爵者外記勳
奏之文用ヲ謂十年勞帳

續帝 大回ノ氏爵 氏奉也凡王氏者奉孫源氏者奉時學院學生藤
コト也 氏奉勸學院學生橘氏ハ則是定之舉也以上學生

其氏長者ヨリ申上也又歎状云
歎状之作ヤウ委在朝野群集
入内 譬ハ内八位外八位ナド、
云類也今ハ外階ハ絶テ無

内階斗リ也内階ハ内ノ字ヲ付又也外階ハ外ノ字ヲ付テ云ナリ
仍テ入内ハ外從五位下ノ者カ内從五位下ニ成ル也朝外異内ト

云一有リ朝臣尸ノ姓ノ者ハ皆外階也六位ヨリ内從五位下ニハ
叙ニガタシ先外從五位下ニ叙也是レ謂ル朝外也異内ハ朝臣ノ

外真人宿祿以下本注ニ有如キハ初手カラ内階ニ成ル也外ハ内
ヨリヒキシ仍初メ外階ヨリ申タル者ハ明年ニ至レハ内階ヲ申

度由ナゲキ願也其時内階ヲ許サレト外也
今日書付申上ルカ入内一加階ノ勳文ナリ
大德 今ノ四
大仁 五

大禮 位六 大信 位七 大義 位八 大智 位九 十二階 上古ハ冠テ位階ノ遠ヒメ見
縫之頂撮捻如蠶而著縁云 其縁ヲ或紫或萌黃ナド、夫レニ縁ヲ

結夕リ今ノ纓ハ此時夕ノ結垂タル結餘リノ古事也
諸王 親王ノ子也二世カラ諸王也故今代ノ親王 衰日 人々ニ依リ

今ハ徳日 家ハ其時ノ天子ノ御猶子ニオサル、一也 衰日 忌ル日ナリ
ト書リ

白馬節會 白馬ノ始之事 河海抄云光仁天皇寶龜六年正月七日天皇
御楊梅院守殿設宴於五位以上已而内

厩宴進青御馬兵部省進五位已上裝馬是青馬始也
白馬陣ト云ハ

春曙抄云建礼門ヲ云龍馬ノ陣ハ春華門ナリ江次第二
北陣之事

ニ龍馬ノ陣右ノ白陣ナト白馬節會ノ所ニアリ
春曙抄云縫殿陣ヲ云ヘリ 御弓券 節會以前ニ兵庫寮ヨリ天子ノ

羽平門 蓋 拾芥抄ニアリ 御弓券 御弓ヲ獻スル一アリ此日天子

へ弓ヲ奉ルハ八日ニ射礼トテ建礼門ノ前テ弓ヲ射ルヲアリ御
弓ヲラニタラシトヨムニ三説アリ本ノ如クナレハ天竺ニ其多
羅葉ト云樹ノ葉長七尺五寸有リ弓ノ量リニ同キニ依テト云ハ
一條兼良公ノ説ナリ今俗ニ云多羅葉ナリ尤此説人ニ不用天竺
ト云ハトテ七尺五寸ハ有テシキナリ又外ノ一説ニタテシハ上
古和琴ナキ故ニ弓六挺ヲ合テ彈シタル事有リタナラシハ訓也
又一説万葉集ニ御執ノアツテ詠之天子自ラ御手に執ラ
ル、御執シメ給フ訓ニテ云此説甚ヨシトス
知日 今日知日ナレハ知杖トテ杖ヲ奉ルヲ有知杖カ 七尺五寸ノ
入レバ諸司奏ト云テ弓モ杖モ一ツニコモル也
長七尺五寸ハナキ也今ノ 青馬 白キト甚キハ青ク見ル也白キ結
兵庫寮ニアルハ七尺六寸ノ 青馬 ノ類ニテ知ル也也ニゴツリニ
委出 邪氣 今俗家ノ春駒ハ 本文 十篇記曰是日見白馬吊年
タリ 是ニラコレリ 中邪氣遠去不來 豊樂
院 禁中ノ西ニ有テ競馬等 アシゲ 白馬ヲア
御覧アル殿ナリ トモ云ナリ

御齊會 建武年中行事曰八省ニテ此事アリ止卿ニイリムカフト
アリハ省ハ號ハ省院曰朝堂院又名大極殿御齊會ノ事年
中行事歌合ニ 荒玉 改ル意 金光明經 寂勝玉經也
委出タリ ナリ 一物二名也

真言院御修法 真言院在八省院西皇帝編年記曰兼和元年正月七
日始置真言院於宮中為鎮護國家五穀豐饒每年正
月限七日被修法今紫宸殿ヲ真言院代トス兼和元年項ニハ中
務省テ行レタリ其後弘法大師表ヲ奉リテヨリ勅解由使廳
ヲツブシテ其跡ハ真 金剛界胎藏界
言院ヲ建ラレタ也 金剛界胎藏界 今ハト委クズイノフ抄ニ出
蔵界ハ内宮也金剛界ハ天胎藏界ハ地也方テハ東西ハ東ハ陽
西ハ陰ナリ畢竟天地ニテ祭ラレリ 仍金剛界ヲ修スルニハ
掛物東ニアリ胎藏界ヲ

修スルニハ西ニアリ
太元師法 四字ニテタイゲン 御衣 今云御極物ナリ毎月晦日ニ天
子着御衣ニキ御衣ヲ天台ノ座

掛物東ニアリ胎藏界ヲ

修スルニハ西ニアリ

太元師法 四字ニテタイゲン 御衣 今云御極物ナリ毎月晦日ニ天子着御衣ニキ御衣ヲ天台ノ座

主へツカハルルハ其御衣ヲイノリ有テ加持セズ、ヲ返上ス
其翌日カラヌサル、ナリ尤新テ御衣ナリ

華林寺

唐ノ秘法 其家ヲテラシムラヌ也中右記ニアリ
寺也 即位ノ翌年ニ有ハ太元師法ナリ

女叙位

叙位ニハ色々アリ常ノ叙位ニハ例ノ叙位
氏云ナリ御即位ノ叙位ト云アリ和氣百濟佐伯等又裳帽

ノ命婦等叙スルナリ大嘗會ノ叙位アリ其以前ニアリ大嘗會ノ
其トニアタル其國々ノ国司ニ位階ヲ給ハルナリ朝且ノ叙位アリ

リ其以前ニアリ曆道カ叙スルナリ又女叙位モアリ臨時ノ叙位
小叙位アリ臨時ニ行ル、ユヘナリ

大リニテシ

申文ナリ大小アルハ人 小輪轉 申文ナリリニテハメ
數ノ多サニ依テナリ

互ニ順番テ 切杭 申文ナリ母ノ旁ヲ以テ 五位ノシヤク 叙爵ハ先
上ルナリ 娘ニ讓ルナリ

氏ワケアルナリナリ爵ヲ五位ト固ルハハ 命婦 外ナリアリ
日本ノ法ナリ名目抄ニアリト云

ノ位アル女ナリ外ナリハ其身ニ位ナクメ夫ノ位ニ准メ 被官 支
イテ、ツカフル女ナリ

姫松

一名姫大夫ト云古キ繪ナドニアリ河内コシダハ社へ
欽明天皇行幸ノ時御先へ兩人五位ノ袍ヲ着テ下髪ニ

テ馬ニナリシニ 三子 神道ノ傳ナリ詩經ニモ出タリ天照太神ノ
弟東堅子ナリ 御子ニ三女神アリ其縁アリ三種ノ傳授也

天下ニ三人子ヲ生メハ天子ヨリ乳母給卷物扶持ナリ給ルナリ
續日本紀ニアリ天子ノニモリニナルナリ有リト云

給女王祿

清サ納言枕草紙ニハ日人ニヨロコヒ、イハレニモハシ
リナハギ車ノシトモウ子ヨリハコトニキヌヘテラカ

注ニハ日ニハ女叙位給女王祿コトナリ有其説ニハハ
イワヒニ注ニ新禁歲時記云七月、為人日、八日ヲ為穀、其日晴
則所生之物齋陰則災、祿 春秋ニ時服ヲ給ル也其服ノ料ニ

縣名除目

縣ハ田舎ニ召ハ禁中へ召寄セラレハニヨリテ之除目
漢書田路傳ノ注ニ師古曰除者除去故官就新官云云

目者祿也此除目ヲ春ノ除目凡外官ノ除目凡云ナリ三名一物之
諸國ノ国司ヲ任也又秋ノ除目アリ京官凡ノ除目凡内官ノ除目
凡云三名同事也内官外官ト春秋ニ分ルレ凡縣官ノ時京官ヲ任
之京官凡ノ時外國ヲ任ハ例也又臨時ノ除目アリ小除目ト云一
人ニテ天功ノ有ルヲ春秋ノ除目トテ待レ又時行ナリ又祭ノ除
目凡秋四月葵祭ニ其祭ニ從ヘキ山城今内蔵助ナドノ中
ハ其以前ニ任スル也又坊官ノ除目アリ東宮傳カフ大夫ニテ任
スルヲ云ナリ又官司ノ除目アリ皇太后宮カラ中宮ニテ任スル
ナリ又国司ノ除目ト云アリ大嘗會ニ国郡シウラナヒ其國ニ當
リタル国司ニ祝ヒニ官ヲ任セラル、ナリ四等ノ中願アレハソ
レヲ補スル也古ハ六州六ヶ国トニアタリ次第也国賞トテ其
国守ニ位階ヲ給ル之又兼官ノ除目アリ古ハ大臣ヲ任スルハ
重キ官ニハ節會ヲ行レ公卿ニ御上ヨリ御尋ノウヘ任セラル、
也宣命ヲ以テ任セラル、也其宣命ニ序ニ大中納言參議ナドヲ
任セラル、ニ序ニ兼官ト云ナリ又追儼ノ除目アリ十
二月晦日以前ニ曆道ヲ任セラル、ナリト云

大臣参リテ

大臣ノ執筆カ本式ニ陣座ニテ參議カ執筆ニ參議
ト宰相ト云ハ夫ニ對テ大臣ノ對ラレ、役カラナレ

ハ宰相ト云異朝ノ宰相ハ大臣ヲ云ク自身宰相トハ云ヌハツ
ト云

弘庇 只ヒサニ 大問

兩説アリ職原抄ノ上一説コノバ一説ナリ職
原ハ外記關官帳ヲ書勤ヘ上ル也仍當時關ノ

官ノ所シ同シ廣ク明テ書ナリ關ノ者ヲ跡カラ書入ル、タメニ
又爰ニテノ説ハ關官ヲ任スルヒカヘ書ナリ官アイテアラ、凡
一統ニ書タテル、執筆ノ案書ニコ、ハ其任スル官ノ所ヲ明テ
シクシ其望ノ有シ 勅許ナルドキ書入ル、之同廣ク明ルハ跡
ニテ主上ノ敬慮チカフタト 虎付 小書ニスル、之譬ハ能登國好
キ又書入ル、為ナリト云 後位下藤原朝臣ト有下々何
ノ功切ニヨリテ官ヲ給ルト云 口傳流、墨シタルニモ色々ノ名
ヲ小書ニ書加ル、ナリト云 墨ヲスル、數モアリ墨ノ小口ヲヒラズル
、ズリナド、云ナリ、墨ヲスル、數モアリ墨ノ小口ヲヒラズル
ナド、云ナリ、墨ヲスル、數モアリ墨ノ小口ヲヒラズル

官奏

官ノ奏トヨム天子マ

名替

譬ハ河内守ヲ任メカラ後故障

任符モ給ラズ故ニ國替 其國ニ任メカラ故障有リテ任符ヲ 他人ヲ任スルヲ云 給ラズ更ニ他國ヲ任スルヲ云ナリ 名國

替

障リ有リテ名モ 秩滿 年秩トテ年限ノ滿タルナリ國司ハ四年 國モ替ルナリ 宛ニテ外ノ國ニ任シ替ルニ仍中事ノ年

限滿タルナリ尤遠國ハ 更任 新タニ其國ニ 任符返上 其國ニ任メ 五年宛ノ一アリ 任スルナリ 任符モ給リ

テカラ障リ有リテ其國へ得ラモムカヌ時ニハ 棟梁 大臣ノ一 大 件ノ任符ヲ返上スルヲ云ナリ

臣大連 曰事記ニ 大寶 元年也對馬國カラ天皇へ黄金ヲ多クケシ 上シタ一アリ仍祝メ年号トス年号ノ始ニ

コレヨリ以前白雉ナドノ年号アレハ 淡海公不比等 天子ノ御外 續カサルユヘ年号ノ外ナリ 戚也学文多

アル人也仍不比等ハ史ノ意ニテフミビトハ訓スルナリ名乗也 淡海ハ死後ノ謚号ニ近江ヲ淡海ト云 近江一國ヲ封戸ニ下ナシ

タリ一國ノ主ナリ大織冠ノ子ナリ大織冠ハ冠ノ名ナリ天智天 皇ノ時冠ヲ作ラレタル第一ノ冠ノ名ナリハコキ紫色ニ又一説ニ

正一位ノ律令 律令格式ハ律ハ刑罰ノ一ヲ書タル書ナリカヤウ 名トアリ 律令 ナ罪ハ死罪或ハ流罪ナド、決シタル章ナリ令ハ

天下一通りノ御定メ也如此セヨト仰アル也今ノ義解ノ如クニ 格ハ代々ノ天子ノ命令也式ハ百官ノ官符ニ行フ式作法ヲ書シ

ナリ延木式ノ 其故ハ職原抄ニテノ傳授ナリ三公ト云 ルイナリ 故アル事 八天ノ三台ノ星ニ象トルナリ太政大臣

尤大臣右大臣ガ三公ナリ内大臣ヲ加シハ四公ナリ四公ト云ハ 無キ一之然時令ハ天下ノヲキテナレハカヤウナルウロンガニ

シキ一ハ書入ラレヌナレハ有テ除カレタリ中納言ハ大宰ナリ 以前ニ有レテノセヌハ納言ハモハモヲストヨム也政ニ大事小

事有レテ中事ト云ハ無キ也故ニ官ノ名ハアレテノセラレヌニ 大内記中内記少内記大判事判事少判事等ノ官名アレテ中ハ 申ナリナリ

以上傳授也

御齋會内論儀

大極殿ニテ有ヘキヲ内裏テ
行ル、エヘ内論儀ト云ナリ
御殿 清涼殿斗リヲ一

御物忌

物ヲ忌ム字義ニテ天子忌キ夢御覽アリテ御氣ニ障
ナリ有ルトキハ御引籠ヲセ玉ヒテ御慎ミアルヲ云

ナリ其時ハ四方ノ御簾ヲ垂ル、リ其簾ニ物忌ト書タル簡ヲ

指ハナムナリ其謂レハ天竺ニカビラエコクト云所アリ其所ニ

大鬼神アリ其名ヲ物忌ト云其鬼神ガ衆生ヲ利益シタキトノ願

ニテ危キヲ有ラハ吾名ヲ書キ門口ニ立ラケト云仍テ其名ヲカ

キハリ付ルナリ天子ノハ桃ノ木ノ簡ニ物イミト書御簾ニ挟ル

、アアリ拾芥抄禁秘抄等ニ委出タリ又源氏海河抄ニモ出タリ

問者講師 各一人也問者ハ知レカタキテ問カクル也講師ハソ

返答スルハナリ問答三度迄ナリ江次第ニ出タリ

論義者

返答ラ作聽衆 聽同スルナリ 天長十年 誤リ也国史曰弘仁
四年正月乙卯朔戊

辰最勝王經誦畢迎高学僧十二人於殿上論義賜御服傳燈大法師

勤操為律師始有此事

献御粥

主水司ヨリ献スル也小豆粥ニ餽ナシテ入ルテ清少納言
ガ枕草紙ニアリ寛平ノ時ヨリ始ル也本文ノ始キハ古来

カラノ俗説ヲ世風記ト云書ニ委アリソレヲ禪園カ書集玉フニ

玉燭寶典曰正月十五日粥ヲ食スルハ門ヲ祭ル為ト云説甚ヨキ

也又警楚歳時記ニ云小豆ノ粥ヲタキ作り門戸ヲ祭ルア又

礼記ノ月令ニ曰孟春ノ月ニ戸ヲ祭ルト有リ此説ヨキニ本文ニ

有ルハ皆虚説ナリ鴨長明カ四季物語ニ曰十五日粥ノ事推古天

皇ノ御代ヨリ有ル夏ニテ赤キハ陽ノ色ヲカラセタマフ御夏ニ

テ小豆ノ粥ヲ給ハラセ玉フトリ冬ノ陰気ヲ陽德ニテ消サセ玉

フ御心ナルベシ山上ノ憶良ト云人ノ奉レル哥ニ春クレバ赤キ

御膳アツ物モ惠ニモレ又他國 唐ヲサシテ 宝尤 黄帝ノ臣下 蚩靈

御代ニ逢ラシ 地ノ神 世風記ト云書ヲ 高幸氏 黄帝ヨリ以前ノ 巷中 町ノ

トナリ 本説者 月レタリ 行人 旅人ナリ 此人 高幸氏ノ ワタマ

サマヨイテ 徘徊ノヲナリタキ 行人 旅人ナリ 此人 高幸氏ノ ワタマ

モトヲルトヨム

踏ヲタキテ神へ奉ルヲナリ
養産 子ニヤシナウ
御節供 草ノ餅ノ下也殷ノ
幽王カウ發也周

白穀 白米七種 近木式ニ云七種ナカフニ米粟黍稗藿子胡麻小
豆以上ヲ七種ト云莖子ハ秘説ナリミノゴトト云

モノノ箱ヲ刈リタルアリカラ出束
タハ箱ノ米ヲ取タルヲ云ナリ

御新 釜ノシタエタクユヘミカセギト云ナリ一説ワケ不知ト云
又一説ニハ頭書ノ江次第ノゴトト云ナリ

踏哥節會 アラレバシリト訓ス祝詞ナリ踏哥ハフム哥ナリ十五
六日頃八月明ラカナレハ其哥ヲウタヒ舞ナリ踏ト云

ハ舞下ニ踏哥ト押出メ云ヘハ男踏哥今ノハ女踏哥ナリ源氏
末攝乾ノ河海抄ニ曰聖武天皇天平元年正月十四日始有男踏哥

同十四年正月十六日天皇御大安殿宴群臣酒酣奏五節四舞畢更
令少年童女踏哥是監觴也同書玉葛ノ河海曰山融院天元六年正

月十四日有男踏哥今ノ度以後男踏哥絶而無之何レノ記録ニ
モ絶テ無シ西宮記ニ其儀式ハ出タリ右天元六年ノ時舞タル人

ハ太政大臣藤原賴忠伴左大臣源雅信公右大臣兼家公大納言為
光御同朝光御是等ガ男踏歌ノ上音ニテ舞レタル人ナリ

ツドヘテ聚ノ子祝詞 萬年所良礼ト称也當代正月ニ每家祝ニテ
舞ス万歳ハコノ遺風ナリト云云

箇夜踏歌 廿五六日頃ノ夏也庭中へ召シタル下日本紀ニアリ
光源氏ノ河海抄ニモアリ上旬カ下旬カナリ

羽玉 黒キト云枕詞ナリ 持統天皇ノ御時ハ
日丙午日十六日ニ也同八年正

月丙午日十六日ニ也同八年正月朔日乙酉又唐人来リテ奏シタ
リ歌頭トテウタノシンドラツシ月華門ヨリ入右近陳ノ庭ニ列

立スルナリ清涼殿ノ孫廂ノ御椅子ニフトギ又
出御有リテ哥ヲ御同アハナリ

ノ也則ソムギノ類布ヲ給一疋ホ段常一タシキ御時武
也今世ハナシト云

天皇ノ琴七弦アルナリ今ハ
御事也 琴七弦アルナリ今ハ
アタラシキ年濃始ニカクシコソ

ツカヘマツラメヨロフ代マテニ日本紀ノ哥ナリ下ノ勺古刀称

爰ニテハ六位ヲ云上ハ無位無官者近モ凡カ柘ト云レハ仍

大筋ニハ六位以上ヲ召ル、ナリ小筋ニハ五位以上ナリ仍大夫

達百ト偏頗 俗ニ云ヒイキメ行、気ナリ上ノヒイキ故ナレバナリ

仰ス、偏頗 書経庚盤曰無偏無頗トアリ天子ハ偏頗ナキハズ

偏頗有テハ乱世ノ基ヒナリ又史記ノ注曰 アラシマジリハアラ

シマゲリトヨム 高巾子 冠ノ名也西宮記ニモ粗出タリ綿ヲ花ニ

カ故實ナリ 花ト云ナリ懈冠ト云有リテ踏哥式ニ高巾子ハ六位ノトアリ

又中院也尼軒ノ説ニハ高巾子ノ冠ト云ハ巾子ヲ高クメ白キ結

ニテハリテ夫ヲ葎人所カヲ舞人六位ノ者ニ給ルアリ又説ニ

高巾子ヲキル人ハ綿テシタル面ヲキルヲ高巾子ト云説アリ右

ノ内カサレノ花ノ説ヨカ 射礼 建礼門ノ射礼ト云正月ニ弓射ルハ意味アリ日本ニテ

射礼 俗ニ子供ハマライルトモ是ニ同キナリ治ルニモ武ヲ忘

ト云意カヲ射ルナリ異朝ニモ有帛文獻通考ノ日本ノ賦ニ

正月一日必射藝ストアリ礼記ニモ出タリ

手ツカヒ 二人宛射テ上手ヲキハメル今賀茂ノ豆揃ト同ジ

天智天皇九年 誤リナルヘキト先師モ 大夫 唐ハ大夫ハ官アリ

高麗國 朝鮮國ナリコマ人 高麗ノ人 シソレヲナシテ 日本ヲソ

賭弓 賭ハカケモノト割ス弓ヲ射タルモノニ佐度布ヲドヲ大蔵

堀 上高クワ奏セラル 弓ヲ射ルモノ各ヲ 射酒 儀式ニアリ江

テナ 管領 上ニ立テ鎮カヘシアル 此事アリ

シ 管領 上ニ立テ鎮カヘシアル 此事アリ

ラケウセヌワ、殿上人ヲ集メテ、
モリエヘナリ、殿上人ナリ、侍臣、公卿ヲモ云爰ハ

仁壽殿觀音供 仁壽殿紫宸殿北ニ有リ此殿東ノ東寺、上古ハ東
クハレ音ヲ供養セテハツナリ、寺西寺ア

リ今ノ朱萑通ガ美明門ノ正面通り、其南ニ朱萑門其南ニ羅城
門今云羅生門ナリ西寺朱萑ヨリ西ニアリシ今ハ田畠トナリ

タリシユビン僧都ヲ西寺ヲ給リ東寺ヲ弘法大師ニ給リタリ東
寺ヲ左大寺ト云西寺ヲ右大寺ト云シ

里内 以里亭准大内為御在所、**寬空僧正** 仁和寺ノ夜居、護持ノ僧供
謂之里内裏ト、元祖ナリ、夜居、云コノ夜居

ハ夜御殿ヲ晝夜加持セラレ、ユル、**二間** 夜御殿ノ額ノ間ノ北ニ
夜居ノ僧ト云ナリ、アル間ノ名ナリ

内宴 ウケク、御内ノ保元、七十七代後白河院年号保元三年正
月才一日ニ有リ百二十年以前有シ

有ヘキヲ雨降テ才一日ニ有シナリ、
百練抄ニ出タリ十九日ニ

國忌 先帝先母后ノ廿五日、今日ニ限ラズ時々ノ七廟、礼記王制ニ
崩御ノ日ナリ、天子ヲ日遠フナリ、出タリ天子

ハ七廟アル也、大祖廟ハ第一ナリ日本ニテハ天照太神ナリ昭穆
ト左右ニアリ大祖ハ西方中央東面ニアリ昭ハ北方花ヒテ三ツ

ニ向テ明ヲカナリ故ニ昭ト云穆ハ南方ニ在テ北面ニアリ穆ハ
クテシ北ニ向テアル故ナリ大祖ト左右ノ昭穆エト合シテ三ツ

ハコホタヌコ下四ツハコボツナリセシテ新主ハ大祖
左右ニ納ラク大祖ハ百代ノ後モ毀ツナラヌユヘ百世不廟

ノ廟ト云ナリ七代律ノ文、又法曹至要、音樂、ガク人今ニテモ
カラハ毀ワナリニモアリ、月會ハセヌナリ、**廢朝**

輕キヲ廢務、重キヲ萬機政ヲ捨、**神祇官獻御贖物**、
テリ、大夏ニ、新訟事モ止メテハ高賣、
スルヲモ止メラルナリ

散末トテ入テ奉ル、猶延喜式ニ出タリ天子ノ不浄ヲ扱イアガ
ニ、お器三ツ、其中ハ人形出テ、**神祇官**、
ハ為之色目ハ柳籠ノ小キ

ナフ也罪人罪ヲ犯セハ過料身ノ代ニ金錢ヲ出メ罪ヲアカナフ

意ナリ贖物ハアガナイ御蔭小キ切人取ヲ作リテ天子ノ御身ヲ
モノ、訓ナリト云。幣ナリ人取撫テ後ニ

天富命 中臣ノ
元祖ニ

外記政始 外記廳ハ早ク始ルハ公事訴訟何時ニナク有ルヘキニ
依テ先早其義式スルハ公事ニ預ル外記故ナレバ也

宰相廳 唐デハ大臣ヲ宰相ト云仍テ大政官ヲ宰相ノ廳ト云ナリ
又官ノ廳凡云也亦大政官廳ニ云也一所ニテ四名ナリ

カタナシ 外記廳ヲ云政ノシムス所也大政官ノ西ノ廊
ナリ又結政所ヲ曹司廳ニ政所ニ結政ニ稱所ニ外記廳

凡云也一所五名アル也曹司トハ大ナル御殿ニハ馬部屋ハ右
ル意ニテ外記ノ廳ヲ如此ル也

檢非違使 ナレ時トナク罪
ヲ行フエヘナリ

吉書奏

吉書ハ諸國ヨリ不動倉ト云藏ノ鑰ヲ請テ藏ヲ開シ為
願ノ文ナリ説言也此鑰ハ國々ヨリ解文ト云テ願ノ文

太政官ヘ奉ルナリ太政官ヨリ其解文ニ官符ヲソヘテ中務省ヘ
送ル也中務省ノ被官ニ監物ト云テ鑰ヲ預ル者有エヘ也扱其鑰

ヲ中務省ヨリ太政官ヘ送ルナリ太政官ヨリ其國ヘ渡スナリ今
史方ヨリ調進ノ鑰文ハ此古風ナリ大臣カ陣座ニ著テ奏聞ラレ

也不動倉ハ國々ニ在リ令ノ上ヘニテハ儀倉ト云也此不動倉ノ
米ハ天下飢餓有ルトキ此倉ノ米ヲ出メ貧窮ノ者ニ與フル米也

初此倉ヘ納ル米ハ御所ヘ納タレ米ノ残り米ト云上ハ一位カラ
下方民ニ至テテノ地子ノ米ト云納置藏也常ニ開カ又藏故不動

倉トハ云也統日本紀養老三年九月ニ五畿七道凡テセングリニ
米多キ藏ヲ開テ諸國ニ與フトア其後例多シ統日本紀曰慶雲

三年閏正月ニ詔ヤリ百姓ニ貧者富者ナリ其所納ノ地子ニテ貧
窮者多クスルニ自今ハ中中以上ノ米ヲ取食キウラスクヘト詔

アリ也中中以上ノ米ヲ取食キウラスクヘト詔
下下ノ上下ノ中下ノ下下ノ段ニ段ニ出ス也必竟御教ヒ米也

○寛平三年八月三日、格曰太政官符右得民部省解、儀主稅寮解、儀不、動數者遠年之儲、非常之備也尋常之時不可、用而或、因稱不足、例年、雜用、申請件、數、開用、假令、可用、千斛之數、猶、開、万、斛、之、倉、遺、九、千、斛、皆、為、動、用、元、來、為、例

七瀬御拔 一條 河原 土御門 上長 近衛 水出 中御門 町 梶木 人形 素盞 鳴尊

ヨリ發ル也惡逆無道ナル王ユヘ諸神達カヨリ尊ノ手 足ノ爪シヌカレ罪ニ行フ返テ御身ノ為ニ成タリ ○御イキ

ラカケ 二度氣ヲカケ玉フ ○云客所役抄曰御拔御使五位七人須參勤而多

御撫物 主上ノ御衣ノ新ヲ幸撫ニ入侍臣ノ參テル、所々 大井川

十ト也 桂川也此川々ヘ 人形シ流スナリ

火災御祭 火災ハ災上ナト無キウニ神ヲ祭ラル也令ニハ 董仲舒 鎮火祭ト有是ナリ但陰陽師テ祭ルナリ

異朝ノ祭書 此書日本ヘ 人ナリハ傳ハラス

代厄御祭 天子ノ厄年ニ當ラセ玉フトキ祭ラル、 勝母 此二字ノ 義知レカ

夕ニ代厄 一名也

釋奠 例年アリ孔子ヲ祭ラル、儀也○釈奠ハ大學寮ニテ祭ラル

我子貢子遊子夏此人數右方也左方 東 因子騫冉伯牛仲弓冉有此人數ノ画像ヲカケラル、也實ハ九哲也七十七人ノ弟子ノ中ス

顔子ト九哲トニ告ラル、祭文ニ通リ有リ延喜式太政官ノ末ニ

祭文アリ○釈奠ハ日未明ノ祭ト云テアリ此儀ハ夜未明ナル

千ニ大學寮ノ學生ハ者カ参リテ供物ヲナシ祭ルナリ其後上 師辨少納言外記史筆參ルナリ論義ノタメナリ大學寮ノ廟門前 主水司手洗具ヲ設各手洗メ入ナリ夜兩段再拜シテ宴座穩座

ニ著ル也未明ノ祭江次第ノ時分ハ絶
止下日 儀礼集注ニ丁日
ニ行ナリ

宴穩ノ座 歳儀ノ座ヲ宴座ト云其所ニテ餐應ナル也クワロギノ
座ヲ穩座ト云宴座ヲ題ラ最リ穩座ヘ移着エルリト書

ノベラルトシニメクリテ 年々順番ニ經一卷ワ、書中ノ題ラ
座ナリ

昨 先聖先師ニソナヘタル供物ナリ年中行事哥合ニ秋哥まはり
心腹のこけとつりて君よをさるるひとろご

ハハ神供ナドヲ申ナリ ナニソノ物ブトイフ 蔵人問フヤ
ノツカ寸 大学寮 禮記ノ王制ニ 王制ニハ無シ文王世子ニ 菜ヲ

供物ヲ菜ト云是ハ秋奠ノ 孔子名時ニヨリチカフナリ魯
二字ノ注也学記ニモアリ 孔宣父 哀公ノ時尼父ト云漢平帝ノ時

褒聖宣尼父ト云魏文帝ノトキ文聖尼父ト云周宣帝ノトキ阪國
公ト云隋文帝トキ先師尼父ト云唐高宗ノトキ大師ト云唐武

宗ノトキ隆道公ト云同玄宗ノトキ文宣王ト云仍日本モ
大丘カ訃状ニヨリ文宣王トセラレ、ナリ

春日祭 大和国添上郡 府官人 近衛 摺袴 アイズリヤリ形ニテ
社アリ四社也

タル袴也又金銀ナドヲスリ入ニモアリ ウチキ 大褂ヲ給ル也小
昔甚見莫ナル工ヘ止ラレシトナリ 褂ト云アリ是ハ

女房ニ一クダリ 一領ヲ一ク 出車 公御殿上人カラ車ヲ出サレ、
給ル也 一クダリ 一領ヲ一ク 出車 故ニ出車ト云又人給ルニナリ

武甕槌命 伊特諾伊特丹尊ノ 陽化ノ出生ノ神也 齋主命 神祕
天津児屋根命

興古登産 重尊ノ出生ノ神也今御即位ノ時鬚ヲ以テヲ 姫太神
、イ奉ルモ此神ヨリテハ

天照太神分身ノ 時風秀行 兩人出生知レガタシ春日
榜幡千子姫命也 縁記此兩人ノ作リ也 訖宣ノ夏

三笠山ニ社 岩子 都語也岩ハ動 太木 大系ヲ以クズ
ヲ建ヘキ訖宣

カシノ

祭 右四柱ノ神ノ内同神故
同日也禁中守ノ神也

率川祭 大神氏ノ神也大己貴命
三枝祭 三枝ノ花ヲ以テ酒タルヲカサル故也花

ハユリノ花也 四月 今ニハ四月
南家 往古ハ南家京家北家武家
トテ四流アリ各儒家也先

南家ハ藤原不比等ニテ高市丸ノ子孫ナリ今ハ絶テ無キ也高市
丸ハ南方ニ居住言ハ南家ト云左傳史記ナドシラモニ学フ家也北

家ハ其次男ニテ房前也北ニ居住ニ北家ト云明經ニテ經書ヲ
專ラ学家也其三男ニ字合ハ武家ノ元祖武部卿申サレシニ工ハ武

家ト云明法ヲ明カニセラレシ故也京家ハ左京大夫ニ任セラレ
シ故也算道ヲテモニ学レシ也南家ハ高倉冷泉ナトノ元祖其外

ハ絶ニナリ 大原野祭 春日社ヲ寫シタル也
神躰春日ニ同シ

祈年祭 トシゴトト訓ズ五穀豊饒ニ出来ンタメ御祈ノ祭ナリ春
秋西度神祇官ニ於テ祭ル也諸国ノ神殘ラズ祭ル也

周禮ニ 周礼ニハ諸国ノメシ物 諸国ヨリ召
ナル故也 白猪白鶏 大歳ノ神

ニハ白猪白雞ヲ供スルナリ大年神ハ
大晦日ノ大歳ニハ非冬ノ神ノ号也

列見 此十一日ノ列見江次第ノ時分大カタ絶シナリ
扱列見有シ

古ハ諸国ニ学校アリ其国々ノ土百姓ノ中常ニ学文ノ志有モノ
ハ其国学ヘテ学文ヲスル也但年々何人ト極リアリ三年又

ハ六年又ハ九年ト限リ学問サセ九年学テ其学功ナキ者ハ四ノ
土百姓ニラハカヘズ也右ノ間先諸生ト云モノ也学文達功有モノ

ハ三年目ニテモ京都ノ学校ヘ登スナリ是亦一年ニ何人ト云
限有文学武藝算学何ニテモ其好達ノ方ノイラサスルナリ

能キ藝ヲ工士ト云モノ考課令ニ寄リテ才ニ才三ト品ヲタテ武
ゲイ達者ノ者ハ兵丁省ヘ遣メ武官又文学達者ハ式ア省ヘ遣メ

能キ藝ヲ工士ト云モノ考課令ニ寄リテ才ニ才三ト品ヲタテ武
ゲイ達者ノ者ハ兵丁省ヘ遣メ武官又文学達者ハ式ア省ヘ遣メ

文官夫々ニテモセテ試ルナリ先六位ヲ叙ス式ア省兵ア省其者ノ
名ヲ書人カララ撰ト同年十一月朔日朝集使ヲメ辨官ヘ書付シ
附ルト二日ニ又式兵ノ二省ヘモトル也最八月晦日ヨリ以前ニ
考へ次オク立テ、ラク也三月十一日式兵諸生ヲ列ソレ太政官
ヘ参列立ク上々辨官納言外記史列座メ上々夫ヲ召寄テ量容
儀ヲ見ラル也其容儀見定ラレ成選ノ短冊ヲ二省ヨリ持テ
メ大臣是ヲ奏聞セラレシテ擬階奏ト云事ヲ短冊ヲ二省持テ
カヘルナリ四月十五日ニ朝所見ノ式アリ列宴穩座儀式座穩
五位ノ位階下ナル也大臣ハ藤冠ノ左
ハクツヲ挿頂花何エハ挿頂花ヲサスヤ不知大臣ハ藤冠ノ左
コグ座酒興ノウヘノ慰ナラン大臣ハ藤冠ノ左
スナリ納言ハ櫻已下ハ右六位ニナツクハ花ニ作花也時ノ花春
レハ櫻ト云類ナリ

定考

列見定考擬階奏トツキ有テリ仍列見ナケレハ
定考ナシニツク凡有片ハ皆有リ毎片ハ皆ナキ也

北野祭

今ノ北野ニテ七野ノ内也二月廿五日今
菜種ノ御供ナリ昂天神薨去ノ日ナリカミアカリ

神道ノ詞ニテ

死スルナリ

祈年穀奉幣

年穀ヲ祈ラレ、為メニ奉幣アリ
二月ノ末ナハシ口時ナレハナリ七月大方ミノ
ヤケノ時ナレハナリ成就ノウヘ太神宮ヘ奉ラレ、ガ冬ノ

新嘗祭ナリ

カヘリ、モアヒニニワラレ、コトナリ

伊勢

度會ノ郡ニシテス神三座ナリ天照皇太神相殿ノ神ナリ
左ハ手カ雄神右ハ万幡千々姫コレハ高御産日ノ御女ナリ

外宮ハ豊後太神也

御食津ノ神ニテ天御中主命也国常立命凡云
何レモ一體ノ名也相殿ノ神左瓊杵尊右二座鬼屋根命天太玉

命也外宮ハ天神内宮ハ

石清水 式外人神也延喜式ニノラヌ神云
天子ノ御先祖ナリ山城久世郡ニ三座也東ハ玉

寄姫神武ノ母公也

神功皇后也應神ノ母公也長和元年二月
十五日今ノ忍山ニ遷座ナリ伊勢八幡ハ日本ノ宗廟ナリ

賀茂

下上山城愛宕郡也上ハ別雷神トテ神祕也下ハ御祖神ニテ
神祕也皇居へ近キ所ナクテモ先ニスル也伊勢石清水賀茂

加

ハ一三所ノ松尾二座也大山吹神ト曾形也津大神トナリ文
宗廟ト云ナリ武天皇六宮元年養氏都理ト云モノ初テ

建立

平野山城葛野郡ノ神社四座今本神源氏祖也日本武尊ナリ
久度神平氏ノ祖也仲哀天皇也古閑神高階氏之祖ナリ

仁德

天皇也姫神大江氏之祖也天照太神宮也又一座縣主菅家中
原等之祖也天穗日命也當社桓武帝延曆年中ニ造立有リ也

箱荷

山城紀伊郡神社三座也五座ハ後ノ夏也延喜式ニ出タリ下
ハ大宮賣中ハ倉箱魂神帛箱荷ニテ五穀ヲ初メテハ神也

上ハ

多田命猿田彦ノ才神也以上延喜式ニ出トナリ也元明天皇
和銅四年ニ初テ御鎮座也今ハ五座也大己貴命ト神功皇后トテ

加ハ

五座也弘長六年春日大和添上郡神社四座延喜式ニ出東ノ
ニ加ヘテレニナリ方第一武鷹槌命神護景雲元年六月

元一

日常陸国鹿嶋郡伊賀ノ名張郡ニ著セ玉ト同年十二月廿
日大和国安部郡ニ著セ玉ト同年正月九日三笠山ニ跡ヲ垂玉

フ也

第二齋主命神祕也下總香取ヨリ移ラセ玉フ第三天兒屋根
命河内平岡ヨリ遷座也第四姫太神伊勢ヨリ御遷座帛天照太神

ノ系

神ノ神内宮相殿ニ姫神榜幡ナク姫命也各神護景雲二年正
月九日今ノ春日山降臨ナリ也

大原野

式外ノ神也四座ニテ春日ト同躰ノ神也春日ハ京都ヨ
リ今葛野郡大原大神神名帳ニ大己貴命トアリ大物玉神氏

野

ハ勸賞アリ大神云又大國主神氏云國作大己貴命氏葦
原醜男氏ハ千杵神氏大國主神氏顯國主神氏云也

大黒

ノ七名ト云如此今ノ大黒ハ天竺ノ人ナリ石上神名帳ニ
出大和国

山

也郡也神躰ハ太刀也太刀ヲ振ルト云ハワケ有リ也物ヲ手ニ
取り振ルノ意也ワルギニハ是非ヲト云ナリ有振ハ動ク義ナリ

遷宮

ニ神躰ヲ移スヲ振ルト云種神宮ヲ振ルト云皆運動スル義
也物ノ振ル動クハ元氣發動ニ生々スル也故ニ祈禱也物滞リ

不順

環故災難奈ヲレシラスル祈禱也加持也帛舟ノ楨ナリ
此ニカクニ彼ヲナラズ也楨ヲ取テ船ヲ思フ岸ニ著ルハ楨ノ

此

ニカクニ彼ヲナラズ也楨ヲ取テ船ヲ思フ岸ニ著ルハ楨ノ

徳也爰ニテ禱禱一ノ災難ヲ集ヤト山巴郡三座也大已貴命大國玉
除キ福ヲ致スハ加持ノ徳也 **大和** 命御年神ト三神也本一神ナリ

大已貴ノ一也崇神天皇 **廣瀨** 大和廣瀨郡是モ後荷ト同シ但シ字
六年ニ御子ニ座ナリ **廣瀨** 命ヲ是ハ女神也今ノ河合明

神是 **龍田** 大和平群郡天御柱國御柱二座也龍田比古龍田比女神
社二座也級長津彦級長戸也命カ神躰ナリ

住吉 撰州住吉郡四座底筒男中筒男上筒男神切皇后也歌ニツ、
トメシユルサヌハ神号ニカ、ル故也哥ニ上ニヨムクワ

ドメノ哥ノ一上下一トナリニ意カワ、ガ子バナラヌナリ

日吉 江州志賀郡七座大物主神大已貴命國常主尊應神天皇國狹
植命 菊理比賣 白山 宇賀比賣 豊斟 奴尊 七代ヲ祭リ也

梅宮 神名帳山城國葛野郡梅宮坐神社四座酒解神 大嶽祇神 大若
子 瓊々杵尊 小若 彦火々火見尊 酒解子 木花開耶姬 此丹酒

解子ハ酒ヲ初テ **吉田** 山城ノ吉田也式外ノ神也神躰ハ春日ニ同
作り出セシ神也 ナセニ同躰ナシハ天子守護ノ神故天子ノ

都時々カワリニ時ハ其所々ニテ勸請也奈良ノ都ノ時ハ春日也
長岡ノ都ノトキ **原野** 也今ハ平安城故吉田也何レ氏春日ノ神

躰ナレハ也帝都近キ **御門** ヲ守リ奉ラセ玉フ故也吉田ハ中納
言山蔭々貞觀年中ニ建立アリシ也八角ノ社アルハ吉田地主也

廣田 五座也津国住吉神ト同躰ニ廣田神合メ一説ニ天照太神ヲ
荒魂ヲ祭タル也ト云荒魂和魂ト云ハ荒ハ御年若キ時ヲ云

和ハ御年老 **祇園** 式外神三座西ハ稲田姫中ハ素盞鳴余東ハ龍王
ノ時ヲ云也 姪也貞觀十八年愛宕郡八坂々ニ移シ奉リシ也

北野 式外ノ神三座東ハ中將殿中ハ菅相丞西ハ吉禰女ト云テ菅
丞相ノ妻ナリ天曆元年六月九日ニ遷座ナリ

丹生 大和吉野郡丹生川ノ風象女命也帛伊特冊尊ノ
御子ナリ白鳳四年ニ御遷座ナリ **貴布祢** 山城
愛宕

郡黒雷神ニテ伊特冊
御子也水ノ神也



雷鳴陣

雷鳴大声三度以上大将以下帶弓箭候御前孫庇願間左右兵衛主南庭敷雷御座鳴盛時分陣遣后殿外衛督佐候殿上

候看帶

霹靂

カントケ下云ハソノフル、所悉ク寸ケ、カントケワルカラト云ナリ

北野祭

愚管抄一延喜九年正月日菅相丞之御変アリケリ其間日記六卷ヤカニ云分所延喜八年六月九日清涼殿ニ雷

才ケテ大納言清貫右中弁希世兩人蹴コロミテケリ御門常寧殿ウツリイサセタマフ延長八年九月廿二日脱履同月廿九日丑時

御出家法名宝金副其後

ヤカテ崩御御年四十六

定考 行跡恪勤

上日 ソカフミソル日 ト訓メ其諸俊参

上日

石清水放生會

八月廿七日南祭ト云テ放生川ノ講ニアリ八幡臨時祭ヲ南祭ト云賀茂ノ祭ヲ北祭ト云ナリ

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

譽田八幡ト御名 神存生ノ時 宗廟 宗祖先祖ヲ 八幡大菩薩

菩薩号ヲラクラレシトハ桓武帝ノ時也此帝德法ヲ尊信シ玉フ

故菩薩号ヲラクリ玉ヒシトハ浮屠氏説ニ八幡ハ垂跡弥勒ハ

本地久遠實成者佛ハ本地天地開闢ノ神ハ垂跡天地未分ノ神ハ

本地成道未分ノ佛ハ垂跡ナト智巧剽竊ヲクサスト云術ナシノ

ウシテ本地垂跡ト云ハナキヲレシトハラク應神帝ハ本地ニテ

八幡大神ハ垂跡ト云ハナキヲレシトハラク應神帝ハ本地ニテ

又混ニテ同一体トスル身至テハ神明ニ名キ道理ニタラシ其

罪ナシト云カラスヤヤヤヤヤヤヤヤヤヤヤヤヤヤヤヤヤヤヤ

八色ノ幡 八幡本紀ニ應神帝誕生ヲ才ハ流ノ幡ヲ立テ軍士ヲシ

セルナルヘシ 三昧耶形 トハ三ツタラノ一也三ツニシタラサ

見俗説辨 茶羅ノ一 雷鳴至鳥遊舞心動動心動心動心動心動心動

不堪田奏 坪付帳 ツボカスラ書 付タル帳ナリ

重陽宴 其道ハミナ 文ノ道ニ志 アル人ナリ 頭ニテハナメハ

例幣 一日ヨリ 此ハ大祀ニ八月ニ 入ルト神更ナリ

初雪見参 雪山 雪ノ多フルハ豊 羊ノ瑞ナリ

宗像祭 天照太神ト 是ハ太神ト素尊ト劔玉御誓ノ時ニ同シ

身化ノ神ト云四品アリ 御誓ノ時素尊ノアレシタタ処ノ心化神

也則心化神ト云此三女神也田心姫余ハ本心也湍織津姫余ハ動

也市杵嶋姫 余ハ静也

五節 郢曲 ウタヒ也

ノノト也

新嘗會

摺衣

コラズリノ衣ヲヤ一アイトスリタル衣ニヘ
音アリ衣ヲ畧シテスリコト云故小草小鳥

アリ又桐竹ナ
トモアルナリ

豊明第會

上卿宰相辨小忌ヲキル

是ハ私ノ小忌ナリ今日
参内ナサレニ私ノ小忌ヲ

着用ノヨノ人ハ諸司ノ小忌

其外ノ人々諸司ノ小忌ヲ束帶ノ上
ニ着用ノ人ハ今日ハウハシク青

摺ヲキル。小忌ニ私ノ小忌諸司ノ小忌ト云モヤウアリ小草小鳥着
用ノ美赤ヒモノ結ヤウアリミナ傳受ナリ

白酒黒酒

二字ニカケテシロキクロキト云
黒ハ黒胡麻ヲ入ルト云又一説アリ

五節所トフラヒテ

トフラヒムカワフ也
ソコヘユクナリ

賀茂臨時祭

勸盃

酒ヲノシテノミクハリテ凝濁ラステ、更ニ酒
ヲウケテソレクムカフヘズ、メルナリ

コレナリ
ト云ナリ

御體御ト奏

イノリ申ヘキヨシ

其方ノ神メタリトシヤト云ヤ
ウナトアレハ其方ノ神ライ

ノラレヨト云ナラ勸文ニ
ノセラレナリ

御佛名

名謁

官位姓名ヲトナヘテ通ラ云名ヲ以
テエツスル故ニナタイメルト云也

考ツルナ

チナラス

鳴絃ノ下也

所エタルカホ也

其人ソノ所ニテ役スル故
所ラエタルカホナリ

トナヘケルハ
佛名ヲトナ
ヘルナリ

或土牛童子像

月令ニ土牛ノ日出久リ注云月建丑丑為牛土能
制水故特作土牛以畢送寒也トアリ此テ

冬ノ寒氣ヲ送リ畢
テ春ヲムカヘシ為ナリ

内侍所御神樂

アヲトヲオシテコモリ給シ

素尊ノ

庵アシ然太神ハ兄弟ノ一ナレハ其ムキニ成レオカレタリ太
神ノ神掌祭ノ御殿ヲケカシアソハカシ又斎殿テ神衣ヲ織ラセ
ラル時ケカシアソハサレタリ故ニ兄弟ノ一トイヘ此ニ色ハ
神明ヲケカシアソハサレタリ、一故大ニイカリテ天ノ磐戸ヲ
サシテコモラセラルルニ依テ天下トコヤミノ様ニナリテ諸
人ノウレイトナル故諸神出御ヲ祈リ申サレ内ニ天兒屋根尊太
玉尊二人其主トナリテ祭ヲツカサトリ出御ヲイノリ天鈿
目命ニサキノカヅラヲカワラトメヒカ女ヲタスキトシテワ
サシキラセラレタリ

禁秘抄卷上

禁秘ハ禁中ノヒミツラ一名禁中抄ト云
又建曆抄トモ云 順徳院ノ勅作也

禁中事

史記秦本紀禁中
ノ二字出所ナリ

賢所

カシコニル所ト云義訓ナリ中右記ニハ畏所ト云又尊所
トアリ日本紀畧ニハ異所トアリ

白地

カリソノメニモ
ト云フナリ

神宮

伊セノ方ナリ
異角ヲ云ナリ

内侍所

上古ハ温明殿ナリ
昔神鏡飛テ内侍ノ

袖ニ留リ給
フヨリ云

憚人

不浄ノ人
ナリ

世始

瓊ノ許尊ノ
時ヲ云ナリ

御本鳥

カムリ
下ナリ

日昼夜冠ヲメシ
ヲオサラレシ

御冠死

中子ノ左右ニ穴アリカミヲ以テ
クハ心(リナリ)穴ノ上ニ羅ヲ張ナリ古キ

冠ニハア

小野宮大臣

實頼

震筆宣命

宸筆ハカナニテ書キ
給メ也台記ニアリ

撰閣御代ヒツノ時ハ眞字ナリ
則日ヲ天子ノ御畫ナリ

長久燒亡

長久ニハヤケシナリ
故ニ灰中ヨリ取出テ

厭クルメニ幸櫃ニ入置
今世ニテヲノ通リナリ
新所 大内燒去ノ後ノ
壽永大乱 清盛ノ乱

還洛之時 文治年中ナリ鏡劔ノ
更ニ禁中へ返一時也
供神物 神供ヲ
合 俗云神折敷也

叙殿 昔ノ役所ノ名ナリ日華門
齊文 秘説ナリ札ノ下ナリ内侍
所ナドニハハヲ又下ナリ

行幸 内侍所ノ
人夢相 未詳
滂沱 シヤジキノ
内大臣 坊門内
府藤原

信清 後鳥羽院
ノ御外戚ナリ

大刀契 刀ハ雜劔ノ惣名ナリ
大小ノ大刀ハ 聖武天皇ノ時ヨリ
始ナリ元ハ劔ヲニフニ引ワリシ物ナリ
大ハ陽トシ小ハ

陰トスルナリ
鋒劔 今ノ不動ノ持シ
天曆帝 村上天皇
三劔 草雉
八握 智仁勇也
智ハ鏡也

十握ナリ神代ニ
清涼殿御劔 日御座ニ今
三種神器

神璽ハ仁ナリ則天子ノ御身ヲ云
劔ハ勇ナリ是
寶劔神玺 神玺ハ四角ナリ方八寸アリ者キトアイノキレニラシ
ライナリ紫ノ糸ニテアム也今ヲカラニハ是ヲアムラ云
打

物イタヒキ
公家 禁中ノ
物イタヒキ

去上 琵琶ノ名ナリ昔去上宰相ト云人ノ
献セシ故其名ヲトリテト云
貞敏 不比等ノ四男參
議從三位曆ノ四世也

直甲 一ニイ板
撥面 バチノアタル
俊房 堀川左大臣也月輪大
臣ノ男ナリ

妙音院 賴長公ノ子師長
入道ノ子ナリ

鈴鹿 和琴ノ名物ナリスバカノ
又字佐法師ト云名和スニモアリ
橋イタシ双ヲ作ルヲ云ナリ

為至極 キホト
ルヤナリ

竈神

神代ヨリ傳リシカト
トナリ今世ハ絶ニナシ云

清凉殿

帳 御帳
ナリ

朽木形

枯木ノ
繪ナリ

瀆床

御帳臺ノ下ノ
ナリ

平敷

日ノ御座ナリ俗云
ニ疊タイハナリ

海部

海符トモカクコトナリ
ルト具トク繪ニカキシ云

南蠻繪

獅子ヤ熊ヤラニ鳥ヤ多此三色
シアトウサ、シテカク也凡成也

二代御記

延喜天曆ノ
託ナリ

小水竜

名笛ノ
名ナリ

石灰壇

下ハイタ上シ石灰ニテヌルヤ
凡ナリナリシニナリ土間ニ唯スト云ナリ

唐繪

今ノ極彩色
ノコトナリ

本文

古夏カケ
ルナリ

閑院

里内裏ノ
惣名ナリ

切妻

小ヒト
ミノ

荒海

高浪ナリ
ト云

南方

ウラノ
ナリ

手長足長

手長カ足長ニ負レテ海
入テ真シトル繪ナリ

殿上

彈基 石彈
ナリ

燈樓

夜々庭ノハチノ木ニ
カケテククナリ

下侍

殿上ノ
部屋ナリ

折松

仄鉢ヘ木ヲ
クヘルナリ

清華

今世ノ清華トハチカウ
也スジメノヨキ人ヲ云

打毬

大宋ノ
繪シ云

馬形



上ノ図ノ
如キ云

遣衣

ハ斤ビラキナリ

下女

主殿司ナ
トナリ也

白澤王

一名模ノナリユメラ
食フ畜ナリ玉ハ貴テ云也

臺盤所

今ニ御内ギナリ女中ノ
ツメ所ナリ

女房簡

女ノ日給
ノ札ナリ

リノ

如此時
分ハ如此也

渡廊

一名落渡
廊ト云

切ミス

半分ノ
ミス也

和繪

源氏ナト
ノエシ云

朝餉

夕盡
キナリ

熨管

ヒノシ
バコ也

畫猫

キンエキ抄ニ云子ズミ
シサケンタメナリ

出居

足ナ
シ

宗忠

中御門右府ト公
今ノ松木ハ先祖也

御手水間

二間半水門
三間ナリ

不可向西

西向セヌハ太神宮ヲ後
ニヌタメノエナリト云

院 白川院 嘉保 三年七月

角様 スジカ

夜御殿 四方 ミチヤダ
臺ノ下也

安 河海抄ニハ案ニ作也
抄ノ源氏ノ抄ナリ

燈樓 下ニ置
テアリ

夜深テ底ニ
カクルナリ

上御局 女中ノ諾
所ナリ

藤壺 フジノダナアル處ノ下
ナリ壺ハ庭ノ下ナリ

萩戸 間ノ名ナリ萩戸アリ
繪ナリ

二間 夜居僧ノ居ル處ナリ 御佛ダシナリソレニ白檀ニテ作シ臺ニ寸
ノ觀音アリ本尊ナリ 明日ノ御衣ヲ加持アリ此役ヲ勤ル僧ヲ御

持僧氏夜居僧ニ
云ナリ

妻 夜御殿ノ東
ノ下ニトナリ

御講 御八講アル
時ノ下ナリ

南殿 天ノ紫微宮ニ比ス又
政夏ヲ行フ殿ナリ

賢聖障子 宇多天皇ヨリ始ル唐
舎元殿ニ習テカキ也

夫子ノ御坐文シハゲ
タモフ様ノタメナリ 本文心 蓬萊山ノ繪ニ其
カクシ懸ラレシ 殿上人ノ禁色シ
額間 東第ニ
間ヲ云

著閑集ニアリ 非職 エリ又人ヲ云

草木 櫻 元ハ梅ナリ桓武天皇ノ時梅ヲウエラレシナリ 仁明天
皇ノ時ヨリ始テ櫻ヲウエシナリ此木ヲウエルハ左右

ノ近府カ行幸ノ節ソコマテ陣ヲ立ル 同橋 橋ヲカ止シハ橋大吏
タメノシルシノ木ナリメシルシナリ 橋カ家ノタチハナラウ

ヘシナリ 中殿東庭竹臺ニ 一ハ河竹臺一ハ吳竹臺河竹ハメタケ也
メ竹ハイツマテモ皮ソキナリ故ニ實ハ

皮ノ字ヲカクナリ 吳竹ハ今ノ竹ナリ此ヲ裁シハ清涼殿ハ
天子ノ御寝所ナリ故ニ竹ヲウエハ雀カ棲テ朝昼クナリ故ニ

朝政ノヲフナワラヌ様ニ御目ヲ 直幹 橋氏ナリ今ノ集解ノ
作者ガノト云

蝦手木 楓ノ下ナリ根 御溝 小庭ニアリ四方ニ遠ルナリ軒廊ヲ
ハユツニ切ナリ へテヲモテ流ル、トナリト云

前裁

庭ノウヘキヲ云庭クテヘラ
前寸イ合ヲスト云ナリ

草架

ツルヲニトハス
テナトナリ

恒例毎日次第

釜殿

モトハ主殿寮ノ
下ヤク

女官

クグ内侍ノ
ナリ

湯巻

白キ生
皆ナリ

上臈

二位三位ノ人ヲ云
上チウノナリ

召侍讀事

師通ヲノリト云負觀政
要ノ字ナリト云

小式

遺誡ノナリ
ナリ

朝夕御膳事

行之

メシウ食ナリ
毎日ノナリ

小臺盤

大臣ノ
料ナリ

所ナ

日没以後事

搔燈

大シトモ
スナリ

毎日御被事

於高遣方傳所衆

御持僧ヨリ加持不^レ先^レ返上スル御
衣ヲ潔クニ^レ拂^レ爲^レテ請取傳スルナリ

近衛夜行事

左右近府夜廻^レシ務^レル
亥刻ヨリ卯刻迄ナリ

問籍事

北陣

玄耀門
ナリ

殿上口

無名門
ナリ

奏時事

内豎ノ
時申也

御修法御加持

時ク
ナリ

毎月事

刀自

采女目ノ下
ノモナリ

名

陰陽ノ
名ナリ

代厄祭

刃子御厄歳ノ時
此ハライアリ

諸陣月奏

六府ノ
也

御膳事

サハスル

元ニホラ
ル也

鳴扇

日ノラモノニカ^レリヲツケシタラ
ヤメノ扇ノヲト^レ元ヤハワスル

此ウタ新選ナ
帖ニアリ

中山太政入道

頼實ノ^レ大炊御門ノ
先祖ナリト云

禁色

紅紫

モヘキナツ此ヲ
女禁色ト云ナリ

小上臈

公卿ノ
女ナリ

供御

シキニ
ナリ

禁野

河内国
交野郡

五色
染ヨリ

禁秘抄卷中

御装束事

紵殿

宜陽殿ノ
後ヨリ

薄額

スキビタイノ一名ナリ又ハニ
ビタイナリコヰヨリニハハ羅

ハカリナリ又アツ
ビタイアリ

檀紙

和名ダンシト云ナリ青ダン
云綿木ノコトナリ

御梳

櫛

御髪アゲナリ紫ノ
直衣ヲキル人ナリ

粟

雪ノ花ノヤウニフルヲ云
雪ヲ六出トモ云ナリ

青色

俗ニ云
山鳩ノ

袍ナリ唐ヲ云
緑鳩是ナリ

引纏

表ヲ引ハナスコナリ
係家ハヒキリト云

神支次第

初年祭

武天皇四年二月ニ始
ルト云ナリ

新穀

元慶六年二月
ニ始ルナリ

例幣

朱雀院御代ヨ
リ始ルト云

御神樂

永保三年十一月百
ヨリ始ルナリ

上季御燈

桓武
天皇

ヨリ初ル其後貞觀七年九月三日大炊寮ニ
大ノ産穢アリ依テ止之三代實祿ニアリ

臨支神支

三日五日

連日ノ御
拜シ云

佛支次第

六齋日

獄令ノ中
ニアリ

御本命日

天子ノ御
歳日ナリ

可遠凡賤支

貴種

俗性ノ
ナリ

御口移

御口上又ハ从ニ
云ワトフコト云

御手移

御
手

ナルシ閑ヲ又
人キシラスシ云

諸藝能支

綺語

作り詞
ナリ

好色

花車風流
ノコトナリ

幽

シクユカシ
キコナリ

被聽臺盤所人事

臺ハ所ハ
御内儀ナリ

高能

持明院
別名也

實行

八條相国ト云人
三條家ナリ

教家 東院大臣九
條家先祖也
良平 醍醐相国
頼實 山相国大炊
公経 野

左府徳大寺
先祖
濟々 衆多ノカタナリ
書経ノ字ナリ
三條関白 齊敏公
公経 西園

寺相国則
先祖ナリ
聽直衣更 入立
臺盤所ヲユル人ノ更シ云著聞集ニ哥アリ
ノウヘアリシムカシニカワラマシトミシ玉名

ノ内ソユカ
シキトアリ
實能 徳大寺左大臣
實隆 道遙院内府三條西
先祖ナリ

公房 浄土寺相国ト云人
家副 倭城内大臣ト云大炊
御門ノ先祖ナリ
忠信 坊門
信清

子十
上鞠 手故ナリ
實氏 常盤井相国
西園ノ先祖
昇殿 昔ハ殿上斗シ
ユリ又昇テ

親王 宗親親王
結上 指貫ヲ今
下結ト云
ケノ秘更ナリ子スヲ猿緒腰

御持僧更 二間ニ居テ昼夜加持スル
御持僧氏夜居僧氏護持僧氏云也
俗姓 家カラノ
智

行 智ハナヘ行
執行ナリ
行靴 身ノカサ
山寺 山門ト三
井寺ノ一
三檀不断 動不

如意輪ハ
修法ノ
證義 僧ノロニギク正ス
撰録 時ノ撰取
異名ナリ
昔水

慈鎮和尚
及奏更 奏聞ノセハラ
政長 花山家
資賢 佐々木野大納
言ト種ス有賢

御侍読更 横参
召ニ非スシ
シテ参ル
政長 花山家
資賢 佐々木野大納
言ト種ス有賢

永縁 興福寺僧ハワ子ニ僧
正ト云哥人ナリ
太政入道 大炊御門
芳心 ケツ
カウ

殿上人更 華旗
我身ノカサリ
シ云ナリ
太政入道 大炊御門
芳心 ケツ
カウ

殿上人更 華旗
我身ノカサリ
シ云ナリ
太政入道 大炊御門
芳心 ケツ
カウ

殿上人更 華旗
我身ノカサリ
シ云ナリ
太政入道 大炊御門
芳心 ケツ
カウ

ナ思召ト
云ナリ

蔵人 左道 不埒
初参 吉書 蔵人ニ補シ
後初テ 内侍

宣 上御ヲ又ヒテ蔵人出納ニ仰
出納小舎人 彼家ニ向ハシメテ宣
テ告ル下也

蔵人所雜色 指貫 キ又ク云
布ノテ奴袴ト云 則狩袴ト云
六位 已上ハ結ノ指又キ七位
已下ハ奴袴ナリ 壹地

ノアヤノサシ貴 左道 身
分ヨリ卑キ役 幼少ノ人
ク料也 ト云ナリ

同衆 公役 天子ノ御使ナリ
公役ヲ勤ルカ 則上日ノ番
日ニナシ 給ルナリ

瀧口 九條開白 師補ナリ

出納 補スルナリ 江次
藤 二委ナリ

舎人 御成敗 御ナリ
及リ又下也 白装束 今世
拜買ナドノ時衛府 長ノ
着用ニ始メナリ

地下者 半殿上 小板敷
追昇ル者殿上 昇者ハ
殿上人ナリ

醫道 雜袍 束帯ノ外ハ
丸 予云ナリ

陰陽道 友閉 禹歩也
ナドヲ行シニ行リ 昔鳥ハ
天下ニ洪範ヲ治 給トキ
水ニテアカガリキレタリ
フノ毎シ云ナリ

身固 加持スル

丸僧 平僧ノ 公請 天子ヨリ
請待 宿装束 ソケン畧衣ナリ
袍衣 本装束ナリト云

宿曜師 天文者ナリ 星
御所 所在所

禁

禁秘抄卷下

尚侍

典侍

生公達

公達家ノ別家人ノ中將女將ニ任シタル親子道

ノ子後嵯峨院ノ御亂母ナリト云

女房

豫参

列参也ト云ニ同シ也

親兼

中関白道隆七代孫権中納言親兼第妻子女ナリト云

下臈

候名

部屋ノ通り名ナリト云

得選

采女ノ内ノ容貌美麗ナルモノヲ云

髮上采女

典侍ナイ子ノカフラカンリシワオス役ノモノヲ云ナリ

采女

陪膳采女

スケケル天子ハ侍内侍ノ手カラテ無ニバ食ヲ奉ルナリト云

侍所

ツ二本ヲ天子御

身ヲ計ラフレヲ宮主ニ給ワテ被ラヌルナリ

刀自

唐衣

大單ナリ結中帯ヲスルナリ

主殿司

裏無

緒太イカクナリ

詔書

六国史ニ在今ノ宣命ノ如キ和文ナリ今世ハ漢文ナリ漢文ニナリシト未詳也且天下ヘフレ流シハ文書ナリト云

改錢

政官儀式ニ在博士ヲ召シテ錢ノ文字ヲ勘ヘ能書ノ人ヲ召テ文字ヲ書シメ給此ヲ改錢ト云下云ナリ

赦令

大赦ハ非常ノ赦ト云ナリ常赦曲赦二国ノ中ノモノシユルスナリ小赦ト云ナリ

天下太平ノ掌儿星故云トナリ

詔書

三通ウツスナリ御書日書

叔其通りヲウフニテ太政官へ送ル又字シ覆奏スル
ナリ此度ハ可字ヲ御書アリ此ヲ太政官ニ留又字シ固々下迄

詔書覆奏 可 愚按史記秦紀也 史記云制固可ニル 忠通 法性寺殿ナリ此ヨリ可字 九年左ニ書更始ナリ

勅書 其人一人二人カギリテ給書ナリ 小吏ノ書ナリ古代ヨリ漢文ナリ 黄紙 唐ニテハ黄麻紙ナリ

論奏 何更ニヨラス太政官ニテ評議 之ヲ奏聞スルヲ云ナリ

宣命

表 義讓 御兄弟位ヲユワリ給フ上表ヲ 奉ラレシテ御代始抄ニアリ 康子 醍醐天皇ノ御子也

癸朝 上東門院 道長子章子 顯房 六條右府公ナリ 御外戚ノ人ナリ 重日 比ノ

九坎 丁未十二月十日 外院 内陣ノ外

征矢 矢シニ 柏夾 纏ラソトヘ巻一又十説繪扇ノラ

移馬 唐鞍ヲウクシテ 水干鞍 今ニナシノ 第刀 當代ニハ 内侍ノ幸

御物忌 其人一年中ノ事 禄命 物忌ノ 名ナリ 御放本鳥 御住ノ者給時

日月蝕 蝕ハ九キモチナトシノ嵐ノ喰フ 軟障 唐ハツイタテノナリ 此方ニテハ幕ナリ高松ノ在

止雨 丹生貴布祢 各水神 崇文 ウラカタノ 送氣方 ウラカタ

祈雨 舟樂 青海波ヲ用ニ龍神 好カク致ナリ

ノ所ノ神

解除 鎮子 尾風ハカミ
打敷 未織アリ
錫紵 錫ハ

シノヒカリアルヲ云。紵ハカラムニ真麻草ヤ
今世リ迄江ナラシノコトキモノシ云ナリ

護身 御身固ノ
一 陀羅尼 驗者 僧ノ兼職ノ
御物付 天子ノ御
事ナリ

御祈 宿曜 天文者 大師 弘法大師
金門鳥 斂 空蔵ノ

六等身 コレヲナシトナリ 親尊ノ
身ハ尺ハ二丈ニアル故ナリ
御 日本紀ニテハミヤヒ

調伏法 愚人ヲトラヘラフ
ヘル法ヲ云ナリ

御修法 初鈴 二度ルナリ 初ノ新鈴
ト云後ヲ後鈴ト云ナリ

殿舎渡御 不及廣 侍臣ナリナリ
打橋 雲橋ノ度外ノ内侍所ノ前

女御露頭 入御ナルヲ云ナリ
入内ノ後始ラ女御ノ

交易御馬御覽 交易ハシロモノカヘナリ 調庸祝ニテ馬
ヲ賞貢ニスル莫ナリ 租ハ年貢故其ニ上レ也
大庭 兼 明

門ト建礼門ノ
間ヲ云ナリ

南殿儀 交易御馬御覽ノナリ也而御装束ハ
任大臣ノセキエノコトニトナリ
棋録 棋政ノ異名ナリ
此ノ事物異名ニ

委ナリ 此書ハ漢ノ胡文
換ト云人ノ作ト云
年預將 毎年此莫ニアワカルモノ故云
スヘラ年預ト云工ノ故ナリ

寮移 馬寮ノウワシクヲト云
移鞍ハ唐鞍ヲウワス故云也

帥大貳諸國受領赴國 御衣 ト云時ハ御袍ナリ
陣 殿上口ノナリ
又尤青瑣門ヲ

モ云此ハ殿上
内廊 長橋廊宣化
陣外 諸門ヲ陣ト云故則
ノ口ノナリ

雪山 殿舎上へノ子ノウ
柄振 雪カキノ
御厨人長女 天子ノ大
小便ヲト

ルモノナリ 源氏ニモ
安主 政所役
下部 仕可ノ
如クモ

犬狩 大丹犬多キトキハ
俊忠 上冷泉家二條中納
言ト云シ人ナリ
吉上 平話シ

テイルモノ
ハナリ

鳥 小窠 町家ノ
鳥合 グラヘル
ナリ

虫 今世モ賀茂社司ナリ此虫
白藤ノ他リ花ヲ付テ奉ル也

藥中抄閉書終

淡江社史記有觀職之

若年書之

